

令和2年度第1回宮城県内河川整備学識者懇談会
各委員からの主な意見に対する対応

項目	委員	意見	対応
治水	伊藤委員	・ 近年の洪水被害について、これは土地利用の変化によるものか、想定外の降雨によるものか。	・ 土地利用の変化もあるが、どちらかといえば近年の降雨状況の変化によるものと考えている。
	風間委員	・ 気候変動について、県はどう考えているのか。	・ 河川整備計画の流量については、近年の降雨データも追加して行う。 ・ 東日本台風の被害状況を考えると、流域治水の考え方に基づいた対応が必要であり、本文に内容を追加した。
	田中委員	・ 計画規模を超える出水は今後も発生すると考えるので、それに対応した整備が必要である。	・ 計画規模を超える出水により、越流や溢水なども考えられるため、堤防強化等により、対応していく必要があり、本文に内容を追加した。
		・ 直轄区間からの背水の影響は避けて通れないため、その観点からの検討も必要である。	・ 背水の影響を受ける河川（大江川、渋井川等）については、背水による被害を防止するため、水門や排水機場の整備等が必要であり、本文に内容を追加した。
		・ 雉子尾川（大内、金山地区）の幹線道路の機能が浸水などにより、通行止めにならないような対応が必要である。	・ 雉子尾川については、無堤区間からの溢水による被害も受けたことから、整備区間を延伸する必要があると考えており、本文に内容を追加した。
	郷古委員	・ 無堤区間の流下能力向上、流域治水、堤防機能強化等を組み合わせ、被害を最小化する方向は理解できる。	・ 様々な施策の組み合わせにより、治水対策を進めることにしており、本文に内容を追加した。
	江成委員	・ 雨水排除について、市町村の下水道部局と連携を図りながら対策を検討してほしい。	・ 下水道（雨水）との連携について、流域治水の推進の中で取り組むよう、本文に内容を追加した。
	平吹委員	・ 何度も同じ被害を受けていると感じている。流域治水などの取組を入れて対策を進めてほしい。	・ 流域治水の内容について、本文に内容を追加した。
風間委員	・ 名蓋川について、破堤が生じているが、今後の整備はあるのか。	・ 名蓋川の整備について、現在の河川整備計画にも整備内容を記載しており、計画的な整備を進めることとしている。	

利水	郷古委員	<ul style="list-style-type: none"> 江尻排水機場の改修など、農政側との連携についてはどうか。 多田川の流域には流域内に多くのため池があるため、治水に利用できないか検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 排水機場の改修等の農政側との連携については、河川協議などを通じて連携を図っていきたい。 防災ため池の活用などについては、流域治水の取組としても重要であると考えているため、本文に内容を追加した。
	江成委員	<ul style="list-style-type: none"> 市町村毎に污水対策がどうなっているか整理するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 下水道の整備状況や水質の変化について、本文に内容を追加した。
環境	伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 河川整備計画の見直しにあたり、魚類調査を進めると聞いているが、可能な範囲で他の調査(貝類調査等)も進めてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 調査時に他の動植物についても、調査をする。
	風間委員	<ul style="list-style-type: none"> ハザードマップの活用を強力に推進してほしい。例えば、災害危険区域の指定なども検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 市町が作成するハザードマップ作成の基礎資料となる浸水想定区域図の作成に加え、簡易型河川監視カメラ、危機管理型水位計の設置、県の河川流域情報システム(MIRAI)の機能拡充などを本文に内容を追加した。 災害危険区域の指定については、市町が指定することとされているため、関係市町に必要な情報を提供することとしたい。
その他			